

いそファミ通信

2015. 1月号



新年明けましておめでとうございます。

本年も皆様の健康のサポートに努めて参りますので、どうぞ宜しくお願い致します。

今月の話題はRS ウィルスについてです。

RS ウィルス感染症は珍しい病気ではなく、主に乳幼児の間で冬季に流行し、通常 10 月から 12 月にかけて流行が始まり、3 月から 5 月頃まで続きます

2 歳までにほぼ 100%が一度はかかるとされています。この病気に十分注意が必要とされるのは、重症化するとまれに肺炎などを引き起こす危険があるためです。特に生まれて 6 カ月以内の赤ちゃんが感染すると、重症化する確率が高くなり場合によっては入院が必要になることもあるため注意が必要です。

RS ウィルス感染症の症状

～知らないうちに乳幼児にうつしてしまうことも～

症状は風邪に似ています。軽い症状の場合は 1 週間ほどで治りますが、せきがひどかったり、呼吸のときにゼーゼーと音がしたりする場合は、すぐに医療機関を受診しましょう。

一度かかれば抗体ができて再びかからないおたふく風邪などと違い、何度でも再感染しますが、一般的に年齢が上がるにつれて症状は軽くなり、年長児以降の重症化はあまり見られません。そのため、大人がかかっても風邪と思ってしまいがちで、知らないうちに乳幼児にうつしてしまうケースがあるようです。

RS ウィルス感染予防には手の消毒、除菌が効果的！



RS ウィルスはくしゃみやせきによる飛沫（ひまつ）感染、もしくは接触感染で広がります。感染力が強く、大人がかかると、周囲の免疫力のない子どもにうつりやすくなります。家庭内での感染が多いとされており、家族みんなで予防の意識を持つことが大切です。

予防の基本は、手洗いやマスクの着用。また、アルコール等での消毒、除菌も効果的とされています。ワクチンの予防接種はありません。

- 子どもたちが日常で触れるものをアルコールなどで消毒、除菌（おもちゃやドアノブなど）
- 手洗い（こまめに行い、せっけんを使って流水で洗う）
- せきをしている人はマスクを着用し、なるべく 0～1 歳児に近づかないようにしましょう

ウィルスが流行する冬の季節には、赤ちゃんを人ごみに連れて行かない配慮も必要です。